

〔花き類の新品種導入および品種改良〕
プリムラ・オブコニカの生育に及ぼす遮光資材並びに養液濃度

吉岡孝行

(園芸部)

【要 約】オブコニカは、夏に遮光ネットの黒色（遮光率 60 %）またはシルバー（遮光率 55 %）で覆い、秋冬期は無遮光条件下の栽培が適する。また、液肥（20-20-20）を使った底面からの常時給水栽培の養液濃度は、夏期；50ppm、秋冬期；50～100ppm 液が適する。

【目 的】

オブコニカの夏期および秋～冬期における遮光資材並びに液肥を使った底面給水時の最適養液濃度を明らかにする。

【方 法】

- 1) 供試品種‘F1ジュノーレッド&ホワイト’。4月3日、市販の播種用土を用いて288穴セルトレイに1穴1粒を播いた。6月2日、3号ポットに鉢上げし、9月14日、5号鉢に定植した。鉢用土は赤土：腐葉土：ピートモス＝4：4：2の体積割合で作成し、元肥に窒素：リン酸：カリ＝0.4g：1.38g：0.4g/Lを混用した。
- 2) 試験1 ①遮光ネット・黒色区、②遮光ネット・シルバー区、③寒冷紗・黒色区、④無処理区を設け、温室7号室内のベンチに設けたトンネンを覆い、底面給水皿からのひも給水栽培とした。
- 3) 試験2 液肥（20-20-20）を使って窒素：リン酸：カリ＝①25-25-25-ppm区（25ppm区）、②50-50-50ppm区（50ppm区）、③100-100-100ppm区（100ppm区）を設け、温室9号室内のベンチにC型底面給水網によるひも給水とし、無遮光栽培とした。
- 4) 各試験とも、夏期；7月30日～9月13日、秋～冬期；9月19日～12月10日とし、試験1は10株、試験2は20鉢を供試、終了時に生育状況を調査した。

【成果の概要】

- 1) 試験1 夏期：無処理区、寒冷紗・黒色区は、葉数、花茎数、副芽で多かったが、黄化葉、枯葉が多発し、草勢を欠いた。これに対して、遮光ネットの各処理区は、障害葉の発生もなく生育が優れた（表1）。
秋～冬期：各処理区とも黄化葉、枯葉などの障害葉は発生しなかった。遮光区は葉数、花茎数がともに少なく、徒長傾向を示した。これに対して、無処理区は葉数、花茎数とも多く、しまった株に生育した（表2）。
- 2) 試験2 夏期：養液濃度が高まると葉数、副芽数などが増加し、株がしまった。乾物重、乾物根重では処理区間の差が小さく、根数、根長は異なる様相を示した。50ppm区は株張り、花茎数、根の発達などで最も優れた（表3）。
秋～冬期：夏とほぼ同じ傾向を示したが、処理区間の差は夏期ほど認められなかった。25ppm区は他の処理区に対して葉柄が長く、草勢が弱かった（表4）。
- 3) 以上の結果、オブコニカは、夏は遮光ネットの黒色（遮光率 60 %）またはシルバー（遮光率 55 %）で覆い、秋冬期は無遮光条件下の栽培が適した。また、液肥（20-20-20）を使った底面からの常時給水栽培の養液濃度は、夏期は50ppm、秋冬期は50～100ppm液が適した。

表1 夏期のオブコニカに対する遮光資材の違いが生育に及ぼす影響

処理区 ^z	株張り (cm)	葉柄長 (cm)	花茎数 (本)	副芽 (個)	葉数 (枚)	葉の大きさ ^y (cm)	障害葉 ^x (枚)	葉色 (spad値)
遮光ネット・黒色区	22.2	11.9	2.1	4.0	36.4	7.9	1.8	43.0
遮光ネット・シルバー区	22.0	12.7	2.0	4.0	36.5	8.0	2.5	42.7
寒冷紗・黒色区	20.6	11.7	2.8	4.3	37.3	7.5	7.1	39.7
無遮光区	20.3	11.3	2.6	4.3	39.6	7.9	11.6	33.6

^z遮光率は遮光ネット・黒色区60%，遮光ネット・シルバー区55%，寒冷紗・黒色区58%

^y葉身長+葉幅/2として算出する。

^x黄化症状，葉焼け症状などの枚数。

調査日 9月13日

表2 秋～冬期のオブコニカに対する遮光資材の違いが生育に及ぼす影響

処理区	株張り (cm)	花茎数 (本)	花茎長 (cm)	開花数 (輪)	花弁長 (cm)	倒伏花茎 ^z (本)	葉数 (本)	葉色 (spad値)
遮光ネット・黒色区	32.9	2.8	20.8	16.5	5.2	3	63.0	34.2
遮光ネット・シルバー区	31.6	2.5	17.4	24.8	5.2	5	68.2	34.7
寒冷紗・黒色区	32.0	2.5	19.5	8.3	4.7	1	65.2	31.6
無遮光区	33.5	4.0	21.2	14.5	5.1	0	76.3	36.3

^z自重により横に倒れた花茎で，10鉢あたりの数量。

調査日 12月13日

表3 夏期のオブコニカに対する養液濃度の違いが生育に及ぼす影響

処理区	株張り (cm)	花茎数 (本)	副芽数 (個)	葉数 (枚)	葉色 (spad値)	根数 (本)	根長 (cm)
25-25-25ppm区	21.9	2.3	6.4	34.5	42.0	13.2	16.8
50-50-50ppm区	23.0	3.2	8.6	38.2	44.5	12.2	18.5
100-100-100ppm区	21.5	2.1	9.2	40.5	48.9	11.2	16.6

処理区	生体重 (mg)	生体根重 (mg)	乾物体重 (mg)	乾物根重 (mg)
25-25-25ppm区	56.7	60.4	92.6	9.3
50-50-50ppm区	57.6	41.2	87.2	4.9
100-100-100ppm区	78.8	22.8	98.8	5.0

調査日 9月13日

表4 秋～冬期のオブコニカに対する養液濃度の違いが生育に及ぼす影響

処理区	株張り (cm)	花茎数 (本)	花茎径 (mm)	開花数 (輪)	花弁長 (cm)	葉数 (枚)	葉柄径 (mm)	葉色 (spad値)
25-25-25ppm区	36.1	4.3	3.6	21.3	5.4	87.3	3.6	29.9
50-50-50ppm区	36.3	5.0	3.5	12.7	5.3	94.4	3.5	30.6
100-100-100ppm区	35.1	4.7	3.4	19.0	5.2	100.0	3.4	33.6

調査日 12月10日